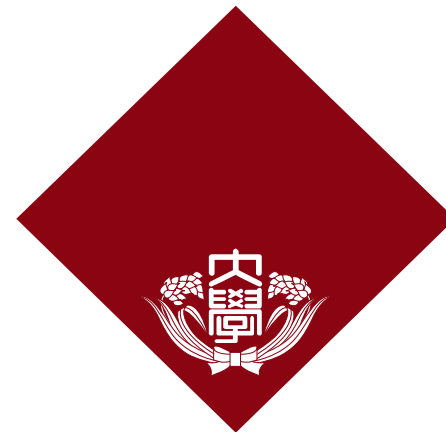




環境経済・政策学会2023年大会・企画セッション
東海大学・湘南キャンパス

高レベル放射性廃棄物の地層処分と地域社会との 「対話の場」を考える

松岡 俊二

早稲田大学レジリエンス研究所・所長

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長

早稲田大学国際学術院・大学院アジア太平洋研究科・教授

smatsu@waseda.jp

2023年10月1日

企画セッション

「高レベル放射性廃棄物の地層処分と地域社会との 「対話の場」を考える」 背景と目的

2020年11月、日本で初めての地層処分に関する文献調査が、北海道の寿都町と神恵内村で開始された。

約3年にわたる文献調査と「対話の場」の実施を踏まえ、以下の3点の本質的な「問い」について議論すべき時期に来ているのではなかろうか。

- (1) 地層処分政策における文献調査とは何か？
- (2) 文献調査における「対話の場」とは何か？
- (3) 地層処分施設の立地選定プロセスとはどうあるべきか？

本企画セッションは、寿都町と神恵内村の文献調査と「対話の場」に焦点を当て、地層処分政策における立地選定のあり方や立地選定プロセスそのもののあり方を、対話＝熟議という視点から深く考えたいと思う。

2011年の福島第一原子力発電所事故の教訓(一部の専門家や政府だけで大切なことを決めてはいけない、安全神話や想定外に囚われてはいけない)を踏まえた原子力政策となっているのかについても深く考えたい。

本企画セッションの構成

座 長：藤原 広行(防災科学技術研究所)

報告：

(1) 本企画セッションの目的と構成(5分)

松岡 俊二(早稲田大学)

(2) 地層処分施設の立地選定プロセスと文献調査(15分)

竹内 真司(日本大学)

(3) 北海道寿都町・神恵内村の「対話の場」の分析(15分)

松本 礼史(日本大学)

(4) 文献調査における「対話の場」とは何か？(10分)

松岡 俊二(早稲田大学)

討論者(各10分)：

梅木 博之(NUMO)

寿楽 浩太(東京電機大学)

黒川 哲志(早稲田大学)

文献調査における「対話の場」とは何か？

(1) 文献調査における「対話の場」とは何か？

文献調査における「対話の場」は、寿都町と神恵内村だけの「対話の場」で良いのだろうか。少なくとも、北海道レベルの「対話の場」が必要ではないかという「対話の場の空間フレーム」の合理性や妥当性を議論することが必要であろう。また、将来世代の声をどのように「対話の場」へ反映させるのかという「対話の場の時間フレーム」も議論すべきであろう(例えば、可逆性・回収可能性の議論)。

また、文献調査と「対話の場」との相互作用により、**文献調査の説明責任・透明性の向上や文献調査の社会的納得性の醸成**が進むことが重要である。

(2) 寿都町や神恵内村の「対話の場」から、文献調査や地層処分に関するどのような「新たな発見」が得られたのか？

対話とは熟議システムの中核であると考えられる。寿都町や神恵内村の「対話の場」から、文献調査や地層処分について、どのような「**新たな発見**」が得られたのかは、「対話の場」＝熟議の本質的な評価に関わることである。

(3) 社会的納得性の醸成のためには、文献調査を単なる技術的プロセスとして理解するのではなく、社会的プロセスとしても理解・位置付けることが必要ではないか？

この点は、**トランス・サイエンス的課題、厄介な問題としての地層処分問題**の特性をどのように理解するのかに関わる。また、地層処分に伴う科学的予測の不確実性を、**科学と政治と社会がどのように協働**して対処するのかを「問う」ことも必要であろう。